

志木ロータリークラブ

2025-26年度 国際ロータリー 会長 フランチェスコ・アレツツォ 「UNITE FOR GOOD」
 2025-26年度 第2570地区 ガバナー 相原 茂吉 「よいことのために手を取りあおう」
 2025-26年度 志木ロータリークラブ 会長 金剛 光裕 「前進」

第2454回 例会

2026-2-4

- ◎司会 吉原 正 副会長
- ◎点鐘 金剛 光裕 会長
- ◎ソング 君が代・奉仕の理想
- ◎ソングリーダー 宮原 一 会員
- ◎四つのテスト 宮原 一 会員
- ◎ゲスト 山本 潤 先生
(東京大学大学院 准教授)



誕生日祝（記事はP2に掲載）



「会長挨拶」

会長 金剛光裕

皆様こんにちは。会長の金剛です。

さて、ただいま衆院選真ただ中です。

皆様、いろいろなお付き合いやご関係があると思いますが、これから先の日本を占う選挙でもありますので、ぜひ投票をされて下さい。

私は、先週申した通り移民問題・外国人問題に大変心配・注目しておりますが、なかなか選挙の争点にならず、マスコミもあえて報道しません。

高市総理は、自身が総理であるという事を問う選挙ともおっしゃってましたが、移民問題・外国人問題に対して触れていただけないのがとても残念です。

また中道改革連合、略して中道、或いは口の悪い人は中革連というそうですが、「中道」について少し申し上げます。

「中道」という言葉を耳にする機会が増えました。実は、中道とは仏教が大切にしている言葉であり教えでもあります。仏教で説かれる中道は、単なる“中間”や“バランス”ではありません。お釈迦さまは、快樂に溺れる生き方も苦しみを目的とする生き方も、どちらも人を自由にしないと見抜かれました。中道とは、その両極端を避けるというよりも、「そこに執着してしまう心そのものを離れる智慧」のことです。ですから、中道は実はとても厳しい教えなのです。どこか安心できる立場に留まることを許してくれないからです。中道は、「今、自分は何に縛られているんだろう？」と、自分に問い返すところから始まります。どちらの意見が正しいかよりも、その意見にしがみついている自分の心を一度見てみる。それが仏教の中道です。中道は逃げ道ではありません。むしろ自分をごまかせなくなる道です。だからこそ本当に自由になりたい人に向けた教えなのだと思います。同じ言葉が使われていても、仏教の中道は、生き方そのものを問い返す教えなのです。そのことだけは大切に伝えていきたいと思えます。

支持者の方には申し訳ありませんが、中道をつかうどこやら政治団体は、自分が自分がばかりで執着から決して離れられません。またそもそも本山から破門された団体が支持母体の連合です。その他の政治団体も一部を除いてみな同じです。

さて本日は、東京大学大学院 人文社会系研究科欧米系文化研究専攻 准教授 山本 潤先生より「英雄譚と歴史—ドイツ語圏の場合」をテーマとしてお話し頂きます。とても楽しみでわくわくしております。

本日もよろしくお願い致します。

「理事会報告」(2/4分) 会長 金剛光裕

- 1) 移動例会 新年会収支報告の件 承認
- 2) 3/4 (水) 例会の件
地区出向者報告 (西浦建貴、大村相基、神山威仁、内山雄二郎、遠藤貴博、西川和人)
- 3) 3/12 (木) 移動例会 (夜間) の件
香川志木市長 ベルセゾン 17:00 点鐘
18:00 懇親会 会費¥8,000
- 4) 3/24 (火) 移動例会 (夜間) の件
宝幢寺花見例会 懇親会 (東雲閣) 承認
- 5) 3/29 (日) 移動例会の件 さくらフェスタ (人力車) →協力要請
- 6) 4/12 (日) 13 (月) 親睦旅行の件
→引き続き参加要請
- 7) 6/10 (水) ロータリーの森清掃
→日程の確認

「幹事報告」 幹事 塩野 章

1. 国際ロータリー日本事務局より 2月の RI 為替レート受信 \$1=¥154
2. 地区事務所より 2件受信
①2026-27 年地区チームラーニングセミナー (D.T.L.S) 開催案内
日時: 3月8日(日) 13:30~16:30
場所: 紫雲閣
登録料: 5000円
②2026年台湾国際大会通信 2026年2月号

「今月の誕生日祝」 親睦活動委員 鈴木 忍

- 2日 高橋 良会員 3日 市之瀬正靖会員
9日 醍醐治江会員 10日 白井義尊会員
14日 小林八郎会員

「誕生日スピーチ」 白井義尊会員

誕生日祝いありがとうございます。来週の10日で59歳になります。59年前、身長が56cm。体重が3850gで、昔でいう1貫です。その体重も今約30倍になりました。10日、新会員の皆さんの歓迎会ということで、併せて私の誕生日会。ありがとうございます。(談)

「委員会報告」

- 職業奉仕委員会 委員長 林 康雄



地区職業奉仕セミナーの報告

2月1日(日)、東松山文化センターで、地区の職業奉仕委員会セミナーが開催されました。

職業奉仕と言うと、抽象的で分かりづらいとの印象がありましたが、30分程の坂本元彦パストガバナーの講話は、職業奉仕の理念が分かりやすく入ってきました。

後半には、東松山むさし RC の小藤恵美子会員の「草の根英会話このゆびとまれ」、富士見 RC 日鼻靖会員の「日鼻医院の在宅医療活動・地域包括ケアシステム」、行田さくら RC の宮本伸子会員の「ものづくり大学における地域貢献、国際貢献」の職業奉仕の事例発表がありました。

- 親睦活動委員会 スポーツ担当 鈴木 忍



富士見と合同のゴルフのコンペのご案内

4月21日が富士見との合同コンペです。それに向けて、4月9日(木)に志木クラブのゴルフ練習会を行いますので、ぜひよろしく願いいたします。

●地区ロータリー希望の風奨学金委員会

地区ロータリー希望の風奨学金委員 西川和人



お手元に「風の便り」最新号をお配りさせていただいております。毎回ご協力いただきまして本当にありがとうございます。

毎年2570地区からは100万円ロータリー希望の風奨学金へのご支援をいただいております。地区大会での寄付、皆様の募金及び鈴木忍君が優勝したチャリティゴルフでの募金もここに含まれております。

引き続きどうぞよろしく願いいたします。

「卓話者紹介」

山村昭康会員



「卓話」

「英雄譚と歴史—ドイツ語圏の場合」

東京大学大学院

人文社会系研究科欧米系文化研究専攻

准教授 山本 潤先生

本日の講演は、ドイツ語圏の英雄譚、とりわけ『ニーベルンゲンの歌』を題材に、英雄



物語と歴史の関係を考察するものである。英雄譚は史実とは異なるにもかかわらず、共同体にとっては「真実」として受け継がれ、理想像や行動規範を形づくる力を持つ。その典型例として取り上げられるのが、5～6世紀の史実を起源とし、13世紀に文学作品として結実したニーベルンゲン伝説である。

13世紀に成立した『ニーベルンゲンの歌』は、こうした古い伝説を素材としつつ、キリスト教文化が支配的となった当時の社会規範を反映して再構成された作品であり、後世の読者が想像するような「ゲルマン的英雄性」を無批判に称揚するものではなかった。実際、中世では続編『ニーベルンゲンの哀歌』とともに読まれ、英雄たちの行動は「傲慢」という宗教的な罪と結びつけて批判的に理解されていた。

しかし、16世紀以降に忘れられたこの作品は、18世紀半ばに再発見されると、19世紀のナショナリズムの高まりの中で大きく意味づけを変える。ボードマーやシュレーゲル、フォン・デア・ハーゲンらの評価によって、『ニーベルンゲンの歌』はドイツ民族固有の精神を体現する「民族叙事詩」とみなされ、そこに「勇敢さ」「忠誠」「自己犠牲」といったゲルマン的徳性が読み込まれていった。こうして作品は、文学作品としてよりも、民族的理想像の源泉として扱われるようになる。その結果、『ニーベルンゲンの歌』は19世紀以降のドイツ史の中で繰り返し政治的に利用されることになる。ナポレオン戦争ではフランスを「悪龍」に、ドイツ兵を「龍殺しジークフリート」に擬える宣伝が行われ、第一次世界

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい

■和光RC 毎週(月) 12:30～ うけら庵

■富士見RC 毎週(金) 12:30～ 島田ビル1F

■新座こぶしRC 第1・第3(水) 12:30～ ベルゼン

大戦ではドイツとオーストリア＝ハンガリーの同盟関係が「ニーベルンゲンの信義」と称揚された。敗戦後には、ジークフリート暗殺の構図を援用した「背後からの一撃伝説」が広まり、国内の「裏切り者」が敗北を招いたという陰謀論が形成される。さらに第二次世界大戦末期には、スターリングラードの悲惨な戦いが「ニーベルンゲンの戦い」と呼ばれ、最後の一人まで戦い抜くことが英雄的行為として称賛され、事実上の玉砕が正当化された。

こうした受容史が示すのは、英雄譚が共同体に理想像を与える一方で、その理想が政治的に利用され、共同体自身を縛りつけ、破滅的な選択を正当化する危険性である。『ニーベルンゲンの歌』の歴史は、英雄物語がいかにか歴史を形づくり、時に歪めるかを示す具体的な例である。

●出席報告 出席向上委員 坂間智子

1月のメイクアップ	1月の平均出席率
9名	85.34%